【資料２】

アイデア募集型プロジェクトについて

KARIYA SMART CITY

令和８年７月３日（金）

【健康推進課】気軽に取り組める糖尿病重症化予防

新規

KARIYA SMART CITY

R8新規

1　背景と現状

- 「特定健診・特定保健指導情報データを活用した分析・評価（令和4年度分）」によると、刈谷市の高血糖保有者（保健指導対象者、受診勧奨者、治療者）の割合は、**愛知県と比較して有意に多い**ことが明らかになっている(高血糖 保健指導対象者の標準化該当比：108.7)。現代医学において、糖尿病の完治は困難であるため、高血糖の人の増加が続くことで、**将来的に糖尿病患者の増加、延いては人工透析などの高額な医療を必要とする人や障害者手帳取得者の増加が生じ、医療費等が財源を圧迫**することが予測される。
- 糖尿病性腎症重症化予防として、刈谷市国民健康保険被保険者のうち、HbA1cが高値である方を対象とした、1クール6回・定員15名の教室を実施している。保健師・管理栄養士・運動指導員などの専門職種が教室を運営している。

2　解決したい課題

- 教室の参加者は、対象者の約1割と非常に少なく、60歳後半～70歳前半が多いことから、**中年層(40歳～50歳)に向けた有用なアプローチが図られていない**。
- 行動変容に**無関心な方にとって、教室の参加はハードルが高く**、また、仕事などによる**時間的制約がある方は、教室の参加が困難**であり、気軽に取り組みやすい実施への改善が必要である。

3　実現したい未来

1年後：行動変容の動機付け及び結果に結びつく生活改善の実施につながり、**参加者の血糖値が改善**する。

2年後：参加による血糖値の改善をPRし、参加希望者が増加し、**多数の高血糖保有者にアプローチ**できる。

5年後：参加者データの分析によって、高血糖に関連する生活習慣の**地域特性を把握**し、**刈谷市民全体を対象とした、一次予防の取組展開及びまちづくり推進**を図る。

4　想定する解決策や技術

- 血糖管理ができるアプリや測定機器（取扱いのサポートを含む）

  ※比較的取扱いが簡易で、活用しやすいものが好適。
- 参加者の数値及び食生活や運動習慣等の生活行動のデータ集計・分析。

【商工業振興課】“地域の余白”に新たな魅力を創出する

新規

KARIYA SMART CITY

1　背景と現状

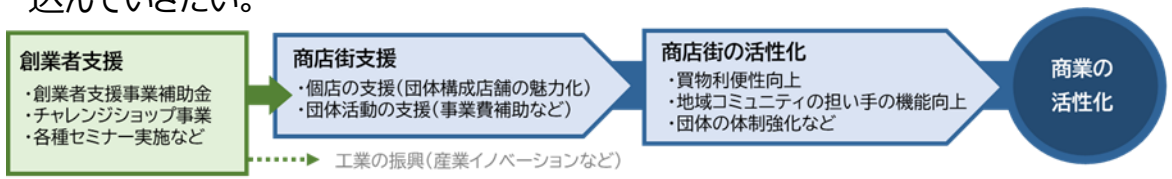
- 郊外の大型店舗やドラッグストアの増加、インターネット販売などの購買手段の多様化や店主の高齢化等に伴い、地域コミュニティの担い手として機能する商店街の組合員数が減少している。
  →市内商店街は、合併や点在する店舗の吸収等により、広域化しているのが特徴。
  （R8.4月現在：10団体　うち構成員50店舗以上は5団体）
- 商業地の地価が高く、創業者（小規模店）が単独で店舗を構えるには、ハードルが高い。
  →R7愛知県地価調査：1位 名古屋市、2位 刈谷市、3位 豊橋市
- 令和7年12月にチャレンジショップ「YOHACO（ヨハコ）」を刈谷市産業振興センター内に開設し、創業者等が実店舗開店前に試験的に事業に挑戦できる環境整備を行い、出店者（飲食1店舗、物販サービス3店舗）に対する経営相談等の伴走支援や地域住民等との交流の機会創出を行っている。

R8新規

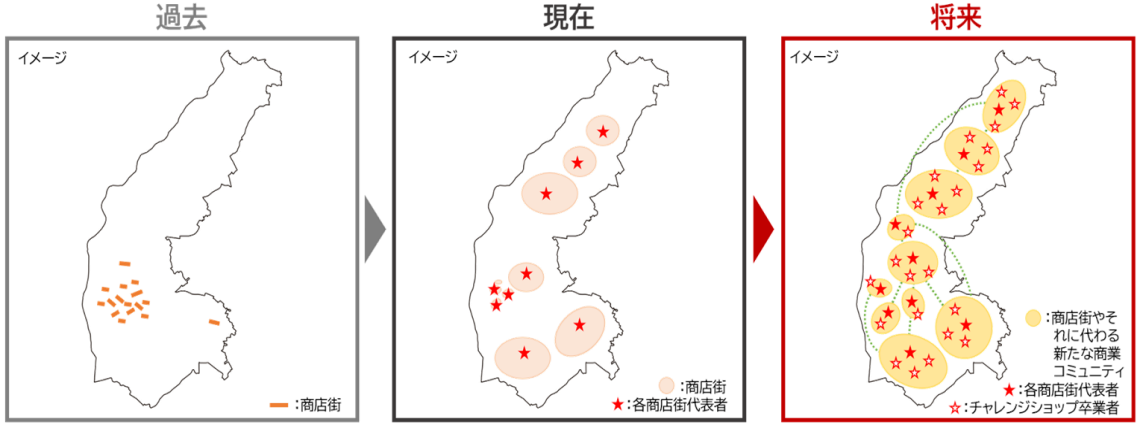
【チャレンジショップ「YOHACO」の様子】

2　解決したい課題

- 現状を踏まえ、商店街の活性化による商業の活性化を実現するため、団体を構成する個店の魅力を高めるとともに、創業者支援により創出した創業者の力を団体に取り込んでいきたい。



3　実現したい未来



4　想定する解決策や技術

- 企業経営の成長戦略のうち、新たな製品を創出する「新製品開発戦略」、「多角化戦略」に焦点を当て、働き方や店舗の在り方が多様化する中で、既存店舗の課題や時間的・空間的な“余白”を可視化し、マッチングすることで、創業者の想いをいかす（共創等を促す）支援を行う。

【まちづくり推進課】移動を快適にする空間の創出と【 都 市 交 通 課 】モビリティの強化

新規

KARIYA SMART CITY

R8新規

1　背景と現状

- 刈谷駅周辺には、大規模な事業所や教育施設が複数立地していることから、**通勤・通学**を中心に１日**約8万人**の利用者がある
- 令和8年度には　**アジアパラ競技大会で多くの観戦客の往来**が見込まれている
- 刈谷市は**ウォーカブル推進都市**を目指しているが、駅周辺の公共施設や商業施設、また事業所への主な**交通手段は車**である

2　解決したい課題

- 駅周辺の大規模事業所や魅力的な公共施設、商業施設へ**安全かつ快適にアクセス**するための**新たな交通手段**を導入したい
- 来街者のまちなかへの誘導や回遊、滞在を高めるための手段の一つとして、**ウォーカブルなまちづくり**を実現したい

3　実現したい未来

- １年後：新たな交通手段の試験導入並びにウォーカブルなまちづくりによる利用者の課題や効果、短縮時間の検証
- ３年後：新たな交通手段のポート増設、まちなかの快適性と回遊性の向上、来街者の交通手段に対する意識改革
- ５年後：車中心の社会からの脱却、人中心の「ウォーカブルな都市・まちづくり」が推進され、活気とにぎわいがあふれるまちなかが形成

4　想定する解決策や技術

- 駅周辺にシェアリングモビリティなどの**新たなモビリティを**導入
- 歩いて楽しい、滞在したくなる、人中心の空間の創出

➢　事業の導入にあたり、『多様な主体の共創によりる収益化→まちづくりに還元→人が集まる→ウォーカブルな都市＋モビリティ利用の促進』という**仕組みづくりを構築**したい

【水道課】スマートメーター実装に向けた価値創出

KARIYA SMART CITY

R7新規

1　背景と現状

- 市では水道事業の一環で、**約6.9万世帯の使用量の水道メータ検針業務を委託**して行っている。
- 現状、一人当たり**検針員の負荷が高まり"成り手不足"の傾向**がある（対応件数が増加、酷暑期での熱中症リスク、高齢化等）
- 検針が難しい箇所等**市内62カ所へスマートメーターを導入**し、遠隔での検針データ取得の実証を行っている

2　解決したい課題

- **検針業務の効率化・高度化**
- スマートメーターを市内全戸へ導入したいが、**イニシャルコストが従来のメーターの約10倍（約３万円／個）**であり、約２億円／年の費用増加を見込む必要があり、**水道事業経営への影響が大きい**

3　実現したい未来

- **全戸へのスマートメーターへの導入**

  ※市民が交換のメリットを理解・享受しながら実装を進める

【スマートメーター導入決定から８年後】
　水道メーターの検定満期が８年と定められており、満期となる水道メーターから順次スマートメーターに交換していくことを想定

4　想定する解決策や技術

- 各世帯のスマートメーターで取得できるデータを用いて、**市民や地域の課題解決ユースケースを新たに生み出し、社会受容性を高める**（個人情報取得許可を得ることが前提）
- 昨年NICTが標準規格として制定した水道・電気・ガスのメータの無線標準規格（Wi-SUN enhanced HAN規格）を用いてIoTを進める次世代スマートメーターシステム

【雨水対策課】河川水位予測を活用した防災体制の再構築

KARIYA SMART CITY

R7新規

1　背景と現状

- 本市は境川水系、猿渡川水系の下流域に位置し、市域及び水系上流での**降雨により、市内二級河川の水位が上昇し、支流である準用河川や排水路の逆流や排水不良を引き起こす恐れ**がある。
- このため河川の越水や溢水、内水氾濫等への備えとして、気象警報発令前の初動体制確保が重要であることから、第１次非常配備前の降雨に対応する職員を配置すべく**出動基準（※）を４項目設け、準備配備体制として課職員の半数６名程を出動させる体制**を取っている。
  ※①流域市町村での大雨②洪水警報の発令時③時間当たり降雨量④境川の設定水位超過時など
- 各種気象サイト情報から**市民はその時点での水位情報は確認できる。**

2　解決したい課題

- 気象や水位情報は、各自のスマートフォンを使い随時入手しやすい環境になっており、気象警報はプッシュ型で自動的に通知される
- 一方で**二級河川の水位情報はプル型で、それぞれの職員が愛知県の「川の防災情報」等複数サイトで流域情報を確認し出動を判断**している。このため夜間や外出時等に情報入手が遅れたり、漏らしたりすることがある。
- 出動は、各人の分析と判断に委ねられ、**個人毎の情報の入手状況によってその判断に差異が生じるため、課内グループLINE (LoGoチャット) で情報共有**を図っている。
- 急激な水位上昇に対して**市民はその時点での水位情報しか確認**できない。

3　実現したい未来

- **各職員が取得するデータ（気象や水位等）の手間と情報格差を無くし、迅速かつ確実な職員招集方法を構築**したい

１年後：準備配備出動基準となる各情報**（複数サイトでの流域情報等）**を**プッシュ型で一括発信し、課職員が同じ情報を、同じ時間に入手し確認できる**

〇年後：準備配備出動基準となるデータの蓄積を基に**ＡＩが分析・判断できる仕組みを作り、出動すべき時期を予見・助言する/指示を自動発信**させる**市民に対して水位予想を提供できる**

4　想定する解決策や技術

- **Webスクレイピング技術とAI**を用いた気象/河川水位等の各種気象サイト情報の一元収集と一括発信
- AIを活用した水位予測や出動判断システム

※河川へのライブカメラや水位計の新規設置は想定せず、既存システム（刈谷市防災気象情報）や気象情報サイトを活用したソリューションを想定する

【下水道課】下水道管路の早期状態把握と維持管理の効率化

KARIYA SMART CITY

R7新規

1　背景と現状

- 市内**約 800 キロに及ぶ下水道管路は、老朽化に伴う劣化や破損リスク**を抱えており、市では長寿命化計画に基づく点検調査を実施している。
- 点検調査は業務委託による対応がメインだが、市への通報を受けて、**職員が緊急点検することも年 30 件程度**発生 する。
- 管路の状態判定は、写真を基に**調査員が目視**で行う。このため調査員の力量により点検精度に **バラつきが生じ**、管路劣化を見過ごすリスクをはらむ。

2　解決したい課題

- 管路の点検業務は市が**多額の委託コスト**を負担して行わなくてはならない。
- 将来、管路点検の調査員不足が見込まれ、**点検技術の維持・継承は困難**となる恐れがある。
- 管路の劣化・破損や誤接続が原因で発生する不明水を未然に防ぐ手立てが講じられず、**処理コストの発生・増大に対処できない** 恐れ

3　実現したい未来

- R6年度は、**一部管路の点検業務に先進技術を活用** したい。そして通常の点検方法と比較し、**スピード・コスト・正確さ** の観点で有効性を判断したい。
- 有効性が認められる場合、R7 年度以降に導入エリアの拡大を行いたい
- これにより、管路の状態把握と維持管理の効率化及び委託コストの縮減、**下水道経営計画の最適化** を図りたい

4　想定する解決策や技術

- **AIによる管路の状態判定の効率化・統一化**
- 予め、AI に管の劣化の特徴（破損・クラック・木の根の侵入等）や劣化度合を学習させ、管路の写真データからスパン毎・管 1 本毎の劣化度の数値化や判定を自動化する